

アカボシゴマダラの分布拡大

高橋真弓



アカボシゴマダラ ♂ 沼津市香貴山. 2015.9.21. (高橋真弓採集)

アカボシゴマダラ *Hestina assimilis* (Linnaeus) は中型（開帳75~100mm程度）の美しいタテハチョウである。

今この蝶が問題になっているのは、現在南関東地方を中心に急速に分布を広げているのが、もともと日本産の個体群ではなく、実は中国大陸中南部から人為的に日本に移入されたものであるということである。

ある情報によれば、首都圏在住の蝶類愛好者が某氏から譲り受けた中国四川省都江堰産の幼虫を飼いきれなくなって、野外に放したのがその源であるという。

それはともかくとして、1995年には埼玉県さいたま市や朝霞市、1998年には神奈川県藤沢市、鎌倉市、逗子市など、さらに2000年代に入ると東京都を含む南関東一円のみならず、山梨県や静岡県にも侵入するまでになった。

現在静岡県では伊東市をはじめ、函南町、清水町、沼津市、御殿場市、小山町、富士市、富士宮市など東部地域にひろがり、さらに静岡市葵区の清沢地区、駿河区の大谷地区などでも見られるようになった。この“ふじのくに地球環境史ミュージアム”の敷地内でも目撃・観察されている。

アカボシゴマダラはエノキの若木を好んで産卵し、幼虫は樹高1m以内の小葉でよく見つかる。近縁種のゴマダラチョウ *Hestina japonica* (C.&R. Felder) は同じエノキの大木にも小木にも産卵し、同じ地点の小木からこの2種の幼虫が見つかることがある。2種の間競争関係があるかどうかは興味のある問題であるが、侵入者アカボシゴマダラが在来のゴマダラチョウを、幼虫どうし、または成虫どうしの競争によって絶滅させることを示す確かなデータは現在のところ得られていない。

属はことなるが比較的近縁のオオムラサキは、山梨県富士川流域の身延町や南部町、そして静岡県小山町などに生息しているが、アカボシゴマダラはこれらの地域にも侵入し、現在分布拡大中である。

外来種を未分布地域に放すこと（放蝶）は好ましいことではないが、外来種が在来種とどのような関係を持ち、その分布を拡大または縮小するのかは生態学上のテーマとなりうるものといえよう。